

ハマネムノキ
(埋没ネムノキ)



新名称・ハマネムノキ(通称・埋没ネムノキ) 2019.7.7 宮 誠而記

2019年7月2日、加賀海岸砂丘に撮影に向かった際、低い位置で咲くネムノキの群落を発見した。当初、ネムノキとの違いが理解できなかったが、もしかしてスマシとアナスマシの関係に近いのかも知れないと、翌日は発見地周辺、7月7日には、砂丘全域の調査をした。結果、発見地周辺に生育するタイプ1と、砂丘と松林の境界線に広く生育するネムノキから、砂丘に入り込む際で、タイプ1に移行する移行型タイプ2が存在する事が判明した。タイプ1,2は砂丘全体で約150群もあり、ほとんどは移行型である。花は同一であるが、樹高が極端に低く、群生する等、ネムノキとは異なる性質を持ち、苛酷な砂丘地に適応するように分化したものではないかと考えられたのである。

理由1

樹高は50~100センチと低く、幹は地上10センチ辺りで幹周が2~8センチと極めて細く、それでなお沢山の花を付ける。(図1参照)

理由2

単独では生育しなく、10~50株が群落を作るように生育している。(図2参照)

理由3

葉は小さく、ネムノキの約50~70。(図3参照)

理由4

小葉の大きさは小さく、先端の形、基部の形に違いがある。(図4参照)

理由5

小葉の厚さに違いがある。

ネムノキ 平均値 0.17^{ミリ}(マイクロメーターで測定・発見地より1キロ離れた場所のネムノキと10キロ離れた場所のネムノキを10パターン測定。測定値にあまり幅はない)

ハマネムノキ 平均値 0.26^{ミリ}(同上方法で測定。0.25~0.27^{ミリ})

理由6

ネムノキは日中完全に開いた状態なのに対して、ハマネムノキは半開き。(図5参

照)

生育状況

発見時、砂丘の波打ち際から約 100m から 150m の範囲の砂地に生育し、幅約 50m 内に大小約 9 群落が確認できた。

幹は細い主幹から 2~3 本の枝を出す。樹形は小さいながら、花付きは極めて良い。花と腺体にネムノキとの違いは確認できない(図 6 参照)。群落内で接近して立つ幹は、地下 10 センチ程で繋がっているものもあるが、おおむねお互いに 20 センチ以上離れて立上がり、多くは単独樹である。花期はネムノキと違いはない。

7 月 7 日の全砂丘調査では、砂丘と松林の境にネムノキが多く散在し、これが連続的に背の低いハマネムノキに移行していく様子が、つぶさに観察された。(図 7)ハマネムノキと移行型の識別は、形態的には、区別がつきにくい。一部小葉の厚さを計測すると、0.20^{mm}前後と、中間値を示した。ハマネムノキは苛酷な砂丘で独自の進化を遂げた樹木と推論される。



図 1 砂地から細い幹が斜上し、先端に多数の花を付ける。タイプ 1



図 2-1 砂丘上に群落を作って生育する。双方ともタイプ 1



図7 砂丘と杉林の境に生育する樹高3~4mのネムノキ(左側)から、砂丘に移行するハマネムノキ・タイプ2(樹高50~80センチ)。非常に興味深い光景である。



<4> 日本海を背景に群生するハマネムノキ。壮観である。タイプ1
このような現象はネムノキではあり得なく、ハマネムノキの大きな特徴である。



図3 葉の比較 左ハマネムノキ

右 ネムノキ



図4 小葉比較

左ハマネムノキ

右 ネムノキ

ハマネムノキの小葉は極端に小さく、先端は鋭利に尖り、基部は少し膨らむ、等の違いがみてとれる。



図5 日中の葉の比較 上ハマネムノキ半開き 下ネムノキ全開

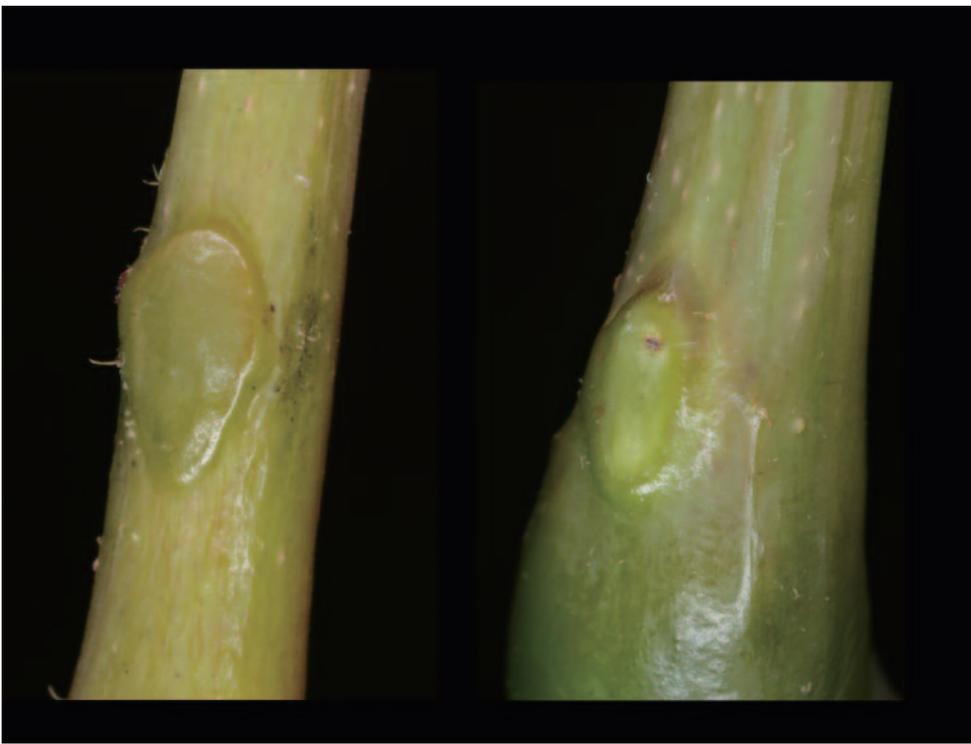


図6 腺体の比較 左・ハマネムノキ 右・ネムノキ
葉軸の太さに対して、花外密腺が大きい。



図6 花の比較 左・ハマネムノキ 右・ネムノキ
違いは見られない

果期調査(2019.8.4) 俗称・埋没ネムノキの命名由来

果期はどうなっているのかを同所で調査を行った。その結果、思いがけない事実が判明したのである。

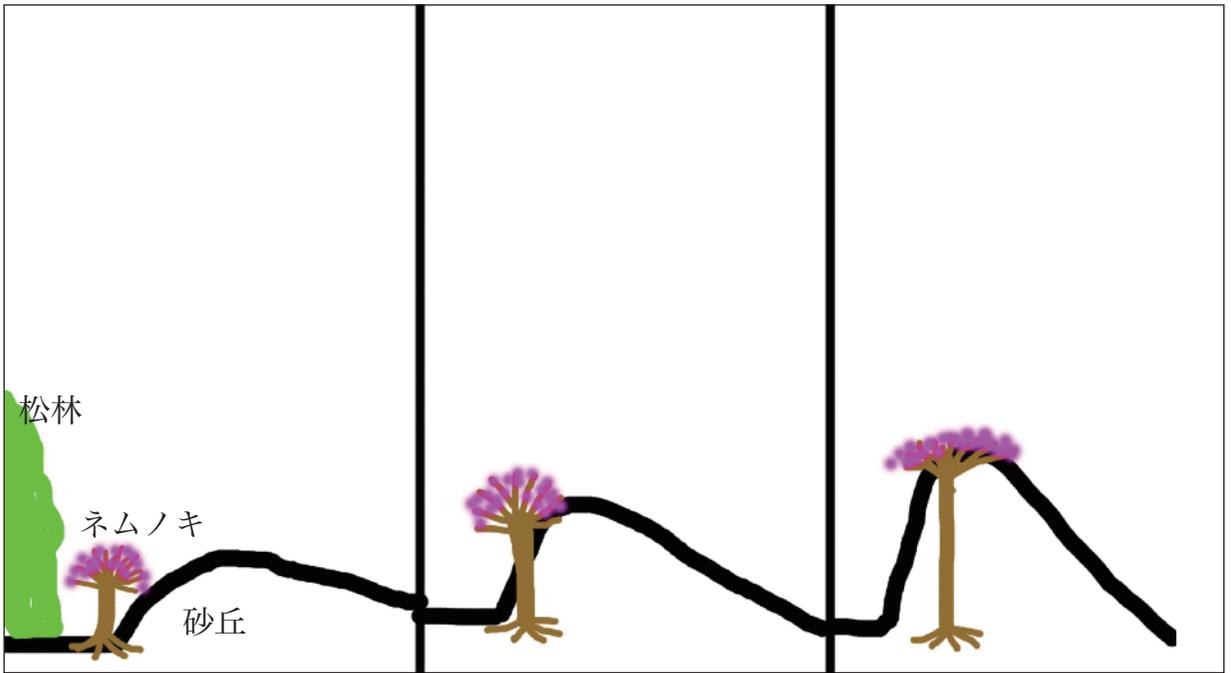
果実は、樹高が極端に低いのに、普通のネムノキの大きさがある。非常に違和感のある雰囲気であった。そこで、もしかしてと考え、前回調査よりさらに深く掘ってみて、意外な事実と直面する事となった。その調査記録である。



50cm程掘り進むと、隣の幹と繋がっていて、根は次第に太くなっていく。根という感じではなく、幹そのもの。これは、根ではなく、幹が砂に埋もれて、先端部がまるで群生しているかのように見える事が判明した。ハマネムノキではその状態が理解しにくいので、**埋没ネムノキ**と俗称名を与える事とした。

しかし、葉に大きな変異が認められる事から、このままの状態が続けば、砂丘地で分化したネムノキの種子ができ、繁殖の可能性もある。今後の調査を待ちたい。

埋没ネムノキの形成過程図解



砂丘と松林の間にネムノキが生育している

砂丘が成長して、次第に埋もれ、ネムノキも生長していく。(中間型の形成)

さらに砂丘が成長し、ネムノキも生長、先端部分がまるでネムノキが群生しているように花を咲かせる。